

松田裕子 令和6年5月度特別作品

丹後から京都へのドライブ旅行 松田裕子

六十代半ばに、友人夫婦と我々夫婦の四人でドライブ旅行をしました。車好きを夫の運転で、兵庫から丹後に入り、伊根の漁師町を散策して新鮮な海の幸をいただきました。その後、京都の中心に向かいました。皆、行きたいところがばらばらで、結局、観光地巡りになってしまいました。楽しい思い出の旅になりました。今は、夫も七十代半ばとなり、遠出のドライブは、体力的に無理になりました。いろいろなドライブ旅行をしてきましたが、その思い出を、これからは俳句にして残そうと思っています。

卯月波舟屋の舟のぐらり揺れ

壁と壁の隙間の先は夏の海

なめろうは若狭の海で捕れし鱈

朝焼や漁船つぎつぎ湾を出づ

丹後より京への道に虹立ちぬ

もてなしに甘酒置いて京の宿

茶畑の中の古民家新茶飲む

青柿が庵の屋根に影落とし

落柿舎出て夫と歩けり青田道

もう一度青瓢箪の前に立つ

《作品鑑賞》

ちどり

裕子さん達のドライブの旅は、丹後に入り伊根の漁師町から始まる。

卯月波舟屋の舟のぐらり揺れ
なめろうは若狭の海で捕れし鱈

四月の波により舟屋の舟がぐらり揺れている。のどかな景である。そこで食べた若狭の鱈のなめろうは極上の一品である。

朝焼や漁船つぎつぎ湾を出づ

大変壮快な光景である。夕方には、たくさん魚を捕って漁船は次々帰って来るのだろう。

次は、虹に迎えられ京都へ入る。

青柿が庵の屋根に影落とし

たくさん青柿が庵（落柿舎）の庭になっていて、その影が庵の屋根に落ちている。青柿の青と影の黒が対照的で、絵画を見ているようだ。

落柿舎出て夫と歩けり青田道

青田道は、裕子さんとご主人のこれからの歩まれる道を示唆しているように思う。